

音三昧 DUO



小山彰太 (drums)

1947年、中頓別で生まれ、札幌で育つ。

早大jazz研に入学し、在学中よりプロ活動を始める。1974年卒業後、本格的にプロの道を進む。

大友義雄4・高瀬アキ3、板橋文夫3、池田芳夫4を経て、1976年山下洋輔トリオ(山下洋輔・坂田明・小山彰太)に入団し、解散まで7年間在籍する。その間に数々のレコーディング・ライブ活動を行う。

毎年敢行されたヨーロッパツアーにおいては、スイスの「モントリュージャズ祭」(アルバム『モントリュー・グロウ』)、ドイツのメルス・ジャズ祭、79年ニューポート・ジャズ祭、80年インドのジャズヤトラ等に出演。

1983年同トリオ解散後、武田和命グループ、佐山雅弘グループ、新板橋文夫トリオにも在籍。その後自己のグループ「ショータイム」での活動をはじめつつ、広木光一バンド、清水末寿グループ、佐山雅弘グループ、「THE 北海道 Band」、「THE TORIO」(林栄一・國中勝男)、板谷博「Guilty-Physic」等で幅広く活動。1996年、一期一会トリオ(竹内直・是安則克・小山)でアルバム「一期一会」をリリース。

2000年、往来トリオ(林栄一・斎藤徹・小山)ツアー。同年12月、小山彰太デュオ集「音三昧Ⅰ」「音三昧Ⅱ」(坂田明/山下洋輔/林栄一/國中勝男/井上敬三/加藤宗之/原田依幸/吉野弘志/登敬三/宅"シューミー"朱美)レコーディング、翌年リリース。

2001年、ミックスダイナマイト(板橋文夫・井野信義・小山)でブラジル・アフリカツアー、2004年、『CENESTHOPATHIE(体感症)』(2003年11月 苫小牧アマダ様での林栄一/小山彰太のライブ演奏)がリリースされる。

2006年9月、ミックスダイナマイト(板橋文夫・井野信義・小山)でモロッコ・チュニジアにツアー敢行。同年11月林栄一とのデュオアルバム『白神』をリリースする。

自己のユニット「一期一会トリオ」、「音三昧」(デュオ)、そして「音嘶」(ソロ)の活動と共に、板橋文夫"ミックスダイナマイト・トリオ"をはじめ、原田依幸G、幽玄(シューミG)、天野丘トリオ、寺下誠クインテットや数多くのミュージシャンと様々な演奏活動を行う。

2007年より新たに、スガ・ダイロー・川村竜という若き俊英と共に、ピアノトリオを結成し、小山彰太トリオとして精力的に活動。2009年、同トリオ(小山彰太スペシャルユニット)で「なまったらん」「うすったらん」「KSSUー外伝一」をリリース。

一方、知る人ぞ知るあのハナモゲラ和歌へらハリ派の祖、山彰太としての活動もあり、その著作「叩いて歌ってハナモゲラ」(徳間書店)は幻の名書となっている・・・はずである。また、続々と刊行されている・・・はずである、短歌集ならぬ単歌集「観猿の記」「語猿の記」「聴猿の記」並びに「為猿の記」は、いずれも世の絶賛をうけている・・・はずである。

2013年9月に、札幌に活動の拠点を札幌に移す。



瀬尾高志 (contrabass)

1979年札幌生まれ。

コントラバスを藤澤光雄氏に師事。2001年、キューバ、アメリカ各地を旅しながらセッション・ライブを重ねる。

2006年、横浜ジャズブロムナードコンペティションに『石田幹雄トリオ』で出演し、グランプリと横浜市民賞を受賞。

板橋文夫(pf)と竹村一哲(ds)とのトリオ『FIT!』、原田依幸(pf)近藤直司(bs)小山彰太(ds)との『魚群探知機』、トリスタンホンジンガー(cello)のグループや、酒井俊、カルメンマキ、寺田町らシンガーとの共演、コントラバス独奏、工藤文輝、ジャン・サスポータス、レオナなどダンサーとの共演も多い。また、札幌にてコントラバス集団『漢達の低弦』を主宰。

ばんけいジャズフェス、横浜ジャズブロムナード、WOMAD(シンガポール)、RISING SUN ROCK FESTIVAL、PERCPAN(リオデジャネイロ、サルバドル)ASIAN IMPROVISATION ART EXCHANGE2010(ソウル)ISB Convention 2013(Rochester.NY)など国内外のフェスティバルに多数参加。2015年トリスタンホンジンガーとヨーロッパツアーが決定している。独自の感性と探求心で、ジャンルの垣根なく演奏活動している。

ブログ URL:<http://plaza.rakuten.co.jp/anabiosisofjazz/>